

森の子育て

2010年5月12日

野堀嘉裕

何年か前の5月の連休でした。一日中天気良さそうなので金峯山から鎧ヶ峰にかけて家族でハイキングすることにしました。我家は羽黒町の三ツ橋にあり北東側に鳥海山、南東側に月山、南西側に母狩山、北西側に高館山が遠望できます。冬は高館山から吹き下ろす地吹雪が厳しくてハイキングどころではありませんが、春から秋にかけては周囲の山々を眺め、我流で天気を予測してからハイキングに出かけます。天候の悪化を最も早く知らせてくれるのは鳥海山ですが今日は快晴で山々が遠く見え、風もなく一日中穏やかそうなのでハイキングです。5月の連休のころは山々に息吹が感じられる季節で、秋の紅葉の時期にも増して山々が輝きます。月山や鳥海山などの高い山は中腹までまだ雪が残っていて、雪形「種蒔き爺さん」が見えるころになると山の麓からブナの新緑が始まり、次第に山を登っていきます。同時にコブシやヤマザクラが咲き出し、山の斜面がカラフルになっていきます。朝の九時、車に乗り込む前に周囲の山々を見渡しながらか、子供たちに今日は天気良さそうなることをレクチャーします。意味がわかっているのかどうかわかりませんが、これもハイキングの楽しさのひとつです。

山形大学農学部の農場がある高坂集落の南に青龍寺集落がありますが、ここから金峯神社の中の宮まで舗装道路が整備されています。中の宮の駐車場に車を置いてペットボトルに水を汲んで、準備運動をしてから、先ず金峯山展望台を目指して出発です。中の宮から金峯山頂までの距離は1kmありませんが標高差は220mありますので初級クラスの登山です。健脚の人は30分程で登ってしまうようですが、家族ハイキングでそんなに急ぐ必要はありません。子供たち男三兄弟は疲れも見せずにやかましいほど大騒ぎしながら歩いています。すれ違うハイカーの人たちから「家族連れでいいですねー」と声をかけられても子供たちにはその意味がわからないようです。私たち夫婦には何となくわかります。ひと汗かいた頃には金峯山の展望台に到着です。ここからの眺めは多分庄内一だと思えます。赤川、内川、鶴岡の市街地を一望できます。鶴岡生まれの作家の故藤沢周平さんは若いころにこの景色を眺めた記憶を思い出しながら海坂藩にまつわる小説を書いていたに違いないと確信されます。

金峯山から鎧ヶ峰に向かう尾根道は小さいピークを二つ超えて1時間ほどの

道のりですが高低差の小さい気持ちの良い道です。新芽が出たばかりのブナやカタクリ、ショウジョウバカマ、イワカガミなどが道端に咲いています。そして春の舞姫といわれるギフチョウも飛んでいます。鎧ヶ峰の山頂は開けていて眺望が良く正面に月山が望めます。山頂では数人のハイカーが休んでいましたが、そのうちのひと組のご夫妻から「去年も会いましたね」と声をかけていただき楽しくなりました。鶴岡市街地からそれほど離れていないこの辺にこんなに自然が残っているなんて大都市圏ではまず考えられません。鶴岡の人たちは何でこんな自然を満喫しないのだろうかと思ふくらいです。連休の晴れの日なのに人が少ないのには寂しいかぎりですが、子育て真最中の我家にとってこんなおいしい景色を独占できる幸せは何物にも代えられません。



金峯山山頂から庄内平野を望む